聲[[1]](#footnote-1)

　　　　　　　　　　　　　　　　　香山光郎

よさむに眼覺むれば

いたつきのわが身

ひとりべつとにあり

數珠爪繰りて

御名唱ふれば

わが聲とも思ほへず

聲天地に満つ

　　朝

　　　　　　　　　　　　　　　　　香山光郎

いざ朝の祈り

老いし父と幼子ら

並び立つ　大麻の前

二拜二拍手

小さき手はなりぬ[[2]](#footnote-2)

日出づるところは

大君ゐます宮居

腰屈めて

父と子らと拜みぬ

『すみらみこといやさか』と

ところは高麗

新羅　百濟の裔

朝な朝なかくありき　今は[[3]](#footnote-3)

1. 『國民詩歌』1942年9月創刊号。『國民詩歌』は國民総力朝鮮聯盟文化部の指導のもとに1942年7月に結成された「國民詩歌聯盟」の機関誌 [↑](#footnote-ref-1)
2. 原文は「さき手」と誤植されている。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 不自然な終わり方である。頁に入りきらず、最後の部分をカットされた可能性がある。 [↑](#footnote-ref-3)